

7章. 神とともに歩む

1. 詩篇 139:1-6 を読みましょう

1. ここに書かれている「主」とは誰のことですか？「私」とは誰のことですか？

2. 1節から4節で、神様が私のことを知っておられると書かれています。どのように知っておられると書かれていますか？
 - 1節：私を探り、私を知っておられます
 - 2節：私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます
 - 3節：
 - 4節：

3. ここで「神様に知られている」と書かれています。そのことをあなたはどのように感じますか？
 - ・ 全部知られていると聞くと、困ったと不安を感じる
 - ・ 私のことを私以上に知っている存在など本当にいるのかなあ？
 - ・ 神様は全部知っていて、私を愛してくださると思ったら感激する
 - ・ そのように私を見つめていてくれる存在がいてくれたら嬉しい
 - ・ 神に全部知られているなら、格好つけても仕方ないなと思った
 - ・ 今までの自分を神はどう思ってくれているのだろうか
 - ・ 恥ずかしい、隠れたい

4. 5,6節には、神様はさらに私たちを知ってくださるために近づいてくれると書かれています。どのように近づいてくれましたか？

5. 私たち人間は「神のかたち」に創造されました（創世記 1:26-27）。それは神と交わり、深い満足を味わえるような存在であることを意味しています。自分の人生を振り返って深い満足を神から受けていると感じているのでしょうか？

6. 次の詩を読んでください

「あしあと」

ある夜、わたしは夢を見た。

私は主と共に、なぎさを歩いていた。暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。どの光景も、砂の上に二人のあしあとが残されていた。

一つは私のあしあと、もう一つは主のあしあとであった。

これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、私は、砂の上のあしあとに目をとめた。そこには一つのアシあとしかなかった。

私の人生で一番辛く、悲しいときだった。

このことがいつも私の心を乱していたので、私はその悩みについて主にお尋ねした。

「主よ。私があなたに従うと決心したとき、あなたは、すべての道において、私と共に歩み、私と語り合ってくださいると、約束されました。それなのに、私の人生のいちばんつらい時、ひとりのあしあとしかなかったのです。いちばんあなたを必要としたときに、あなたが、なぜ、私を捨てられたのか私にはわかりません。」

主は、ささやかれた。

「わたしの大切な子よ。わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。ましてや、苦しみや試みの時に。あしあとがひとつだったとき、わたしはあなたを背負って歩いていた。」

イザヤ 46:4・・・神の約束を受け取りましょう。

II. 詩篇 139:7-12 を読みましょう

1. ダビデは神様の素晴らしさを感じていましたが、あるとき、離れたくなりました。どこに逃れたのでしょうか？

- 7 節
- 8 節
- 9 節
- 11 節

ダビデは神様を親しく感じていましたが、あるときは神から逃れたいと思いました。しかし、どこへ行っても神様から逃れることができませんでした。すべての場所に神様はおられます。暗闇も神様の光で照らされます。

III. 詩篇 139:23,24 を読みましょう

1. いろんな経験をした後で、ダビデは自分のほうから神様にもっと知ってもらいたいと願っています。何を知って欲しいと言っていますか？

2. 神様から逃げた経験もあるダビデだが、今は自分のほうから「私を知ってください」と願っています。ダビデにどんな心、信仰の変化があったからだと思いますか？

(例えば)

- ・神様から離れてみても逃げ切れないことがわかった
- ・神様から離れてみて、もっと深く自分の渴きを知った
- ・自分のやり方を押し通してみたが結局、だめだった
- ・自分の弱さ、思い煩いをも含めて、神様は私を受け入れて下さるのがわかったので、安心して自分をさらけ出せた
- ・神様に格好をつけないで願っていこう、祈ってみようと思えた

3. あなたの中にも思い煩いや傷ついた道があるでしょうか？

[不安、恐れ、挫折感、孤独感、孤立、ストレス、悲しみ、喪失、自分を愛せない、ひきこもり、うつ的な症状、自殺願望、空虚、人間関係で傷ついている、赦せない思い、恥意識、劣等感、拒絶感]

IV. 神と共に歩むために…赦しについて

もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。
しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。

マタイ 6:14-15

赦しとは…

- 1)十字架におけるイエス様の御業によって傷や、怒り、恨みを心の中から取り除いていただくという自らの選択
- 2)自分に対して犯された罪に対して償いを要求する権利を捨てること
- 3)神に従い、裁く心や、苦々しい思い、憎しみを心から取り除いていただくこと
- 4)裁判官、および陪審員の役割を、自分ではなく神にお任せすること

なぜ赦さなければならないのか？

- 1)復讐は無意味であるから ローマ 12:19

2)赦さなければ、私たちは自分自身をも失うことになるから

赦しではないもの…

- 1)悪い行いを大目に見ること
- 2)正義を否定すること
- 3)傷ついたことを否定すること
- 4)何も問題はないふりをすること
- 5)他の人になるように要求すること
- 6)さらに傷つくことを赦すこと:適切な境界線が必要とされる
- 7)謝罪を強要すること
- 8)弱いこと…赦しは勇気を必要とします

赦しの祈り

私はしばしば、私を傷つけた人が、私のように傷つければいいのに、とってしまいます。彼らが私にしたことがどれだけひどいことかを彼らが知り、それを後悔させたいのです。けれどもこれは復讐であって、あなたの領域です。あなたの領域を侵害しようとしたことを、赦してください。私の復讐心を赦してください。大丈夫なふりや傷ついていないふり、何事もなかったようなふりをしなくても良いことを感謝します。私の心の痛みに耳を傾けてくださって、ありがとうございます。私の傷や私の罪は、あなたにとって、どうでもよくないものです。だからこそ、あなたは私の癒しのために、赦しを用意してくださいました。

イエスの御名によって祈ります。アーメン